

【ポスター発表】

園芸・造園を通じた学生も含む地域福祉増進について
ーA市社会福祉協議会との関連性に注目してー

○ 南九州大学環境園芸学部 林 典生（会員番号 005404）

キーワード：市社会福祉協議会、福祉教育、キャンパスソーシャルワーク

1. 研究目的

著者が在籍する大学にある A 市社会福祉協議会（以下、社協と略す。）において、A 市に関する福祉の歴史を紐解く研究会が立ち上がり、地域で取り組んでいる福祉実践の歴史に関連する文献を調査するだけではなく、当事者や関係者の方の語りに基づいて記録を作成する取り組みを行っている。その中には過去に社協の取組として、青少年健全育成の一環として市内の公園の一部施設運営を行っている等の当時の関係者以外ではあまり知られていない活動があることが明らかとなった。

本研究では上記の研究や実践活動に今後つなげていくために、2009 年より園芸・造園を通じた学生も含む地域福祉増進の経緯について演者と社協との関係の歴史を整理することを通じて、これまでの成果と今後の課題を明らかにする。

2. 研究の視点および方法

本研究はこれまでに演者が社協との活動に関わる文献（林（2013）、林（2021）他）を歴史的に整理するとともに、補足資料として当時の関係者に関連資料の提供をお願いし、了承された文献も含めて整理することを試みた。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会倫理規程に則って研究を実施した。本研究は関連文献・資料の整理・分析であるため、自説と他説の峻別は特に注意した。なお、本発表は開示すべき利益相反はない。

4. 研究結果

研究結果として、【関係模索】、【関係構築】、【関係拡大・深化】の段階が見られた。

【関係模索】の段階：演者が所属する大学が A 市に移転が決まり、移転直前の 2009 年に大学主催で地域住民を対象にした意見交換会を実施した。その時に社協職員に声掛けのお願いを行い、声掛けに応じた福祉施設関係者が参加した。また、2010 年より社協の中にあるボランティアセンターより借用した車椅子を用いて、園芸・造園や自然環境を学ぶ学生を対象にした福祉教育の一環として実習授業を実施している。但し、お互いに顔なじみになったばかりで、どんなことで協働ができるか模索している状況であった。

【関係構築】の段階：2010 年の秋から 2011 年の冬にかけて社協職員の提案により、地域包括支援センターならびに地区社協のサポートによる大学生と地域の高齢者団体の協働

に基づく介護予防とネットワーク構築のガーデニング活動を実施するとともに、2012年の春に大学を舞台にして、地域にある福祉団体・機関が一斉に集合してボランティアに関するイベントが開催された。2つとも社協職員からの提案に基づき、その提案より大学生や演者がその提案に基づき、活動を具現化させる中で関わっている支援の必要な学生が持っている力を伸ばす姿を見て関係が構築されている状況であり、地域の力を活用したキャンパスソーシャルワーク実践ができることが明らかとなった。また、この取り組みを知った他の関係者から演者に活動への協力依頼をいただく状況となった。

【関係拡大・深化】の段階：社協と演者は地区社協の地域おこし活動に協力する等の様々な活動で協働する中で、県の委託事業で社協主体となり、特定非営利活動法人等が協働し、市民社会づくりを行うために協働商談会が開催され、演者が成果を発表するだけではなく、演者が地域にある2団体を結び付けて、2014年にその成果を団体による発表に結び付ける発表が行われた。また、地元の実業系高校からの依頼を受けて、高大連携事業における福祉教育の1つとして2023年の春にボランティアに関するイベントでガーデニング活動を実施した。また、社協の中にある基幹相談センターが事務局になっている障害者自立支援協議会の就労支援部会でコロナ禍でのしょうがい当事者の学びを行うために大学生と協働して消費者被害防止を行うためのDVD製作を行うとともに、福祉教育の1つとして地元の高校としょうがい当事者がお互いに就職について学び合う機会を設けることを実施した。このように社協と演者の間の関係だけではなく、複数の団体と交えて様々な関係が拡大するとともに、社協と演者との間において関係が進化していることが明らかとなった。

5. 考察

上記の通りに、社協と演者との間に歴史的流れを関連文献・資料を整理すると地域福祉の増進を行うにはお互いのできることを話し合いながら、関係を構築する必要があることが明らかとなった。特に、活動を通じて学生が持っている力を伸ばすことができることが明らかになるとともに、地域にとっても貴重な社会資源として認められ活用され続けることが明らかとなった。つまり、学生の個々の力を伸ばすとともにお互いに支え合える地域づくりに貢献できる2つの側面を持って実践する必要があることが明らかとなった。

文献・資料整理を行う中で明らかとなった課題として、これらの活動実施にあたり、継続するためには後々の人に活用しやすい形にする必要がある。そのためにも活動実践を記録に残して整理するプロセスが必要であることが明らかとなり、今後もこれらのプロセスを継続する必要がある。

参考文献

林典生(2013)「地域社会と連携したガーデニング活動による大学生生活支援」『農業及び園芸(養賢堂)』88(1). 105-116.

林典生(2021)「オンラインを活用した大学生向け福祉教育実践報告」『日本福祉教育・ボランティア学習学会第27回埼玉大会要旨 令和3年秋』(埼玉県立大学),124-125.